

吹田市事業目標

日本語指導が必要なすべての児童・生徒に対する適切な指導・支援体制の充実

市教委が主体となり、日本語指導加配教員配置校を中心に支援を行い、その成果を域内に普及・発信する

事業実施体制

- ◆ 市教委が主体となり、日本語指導加配教員配置校（5校）を旗艦校として、日本語指導が必要な児童生徒及び在籍校に対して（R7.2.28見込み 小学校76名【35校中21校】 中学校21名【18校中10校】）「特別の教育課程」による日本語指導の実施及び教育活動に係る指導・支援を行った。
- ◆ 吹田市国際交流協会（SIFA）、吹田市在日外国人教育研究協議会等関係機関と連携した。

実施内容

日本語指導担当教員連絡会及び 吹田市国際交流協会（SIFA） との情報交換会（年間11回）	学校における指導体制の構築 ※日本語巡回指導を除く取組	【新】ICTを活用した教育・支援
◆ 日本語指導担当教員連絡会（年間11回） 内容：市教委より、各担当教員より（実践交流及び当該児童生徒の情報共有等） ◆ 吹田市国際交流協会（SIFA）との情報交換会（年間11回） 内容：市内における帰国・外国人児童生徒等の現状と課題の整理並びに支援体制についての協議	◆ 日本語適応教室「さくら広場」の運営 ◆ 通訳者派遣事業 ◆ ICTを活用した教育・支援（「KOTOBAL」5台並びに「ポケットーク」8台の導入予定） ◆ 吹田市在日外国人教育研究協議会委員会にて、市教委より情報提供。 ◆ 人権教育担当者の業務内容に、日本語指導、多文化共生教育の推進を明記。	◆ 令和7年度、日本語指導加配配置校である千里第三小学校、岸部第二小学校、古江台小学校、青山台小学校、第一中学校の5校に、多言語ツールシステム「KOTOBAL」（コニカミノルタ）と「ポケットーク」（ソースネクスト）を配備し、配置校を中心に必要に応じて、巡回校に貸与しながら適所適材に翻訳機を活用した。

市教委の取組	日本語指導加配教員配置校の取組	市内小・中学校の取組
○ 校長・教頭指導連絡会、人権教育担当者において周知 ○ 日本語指導担当教員連絡会開催 ○ 通訳者派遣事業、さくら広場運営 ○ 日本語指導、多文化共生教育の取組の把握・事例の収集・普及 ○ 三島地区多言語進路サポートガイダンス	○ 拠点校における日本語指導、多文化共生教育の取組の推進 ○ 日本語指導巡回指導 ○ 翻訳機を活用した日本語指導・支援 ○ 効果的な取組みの全校への普及	○ 特別の教育課程による日本語指導の実施 ○ 多文化共生授業の実施 ○ 各校において日本語指導、多文化共生教育の推進 ○ 実践事例の作成 等

「ICTを活用した教育・支援」で得られた成果

多言語ツールシステム「KOTOBAL」（コニカミノルタ）や「ポケットーク」（ソースネクスト）を導入したことで、帰国・外国人児童生徒及び保護者と教師や友だちが円滑なコミュニケーションがとることが可能になり、児童生徒が安心して学校生活を送ることができた。また、日本語指導でも活用することで、授業でのコミュニケーションが可能になり、学習内容の定着がスムーズになった。

今後の取組

ICTを活用したAI翻訳機の拡充を行い、より多くの日本語指導が必要な児童生徒への支援体制の構築を目指す。